

- 問1 日本企業のベトナムへの進出数は2015年の889社から2017年には1062社へと増加していますが、この現象の要因となった、東南アジア諸国の賃金水準に関する記述として正しいものを選びなさい。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. ベトナムの平均賃金は中国と同等であるが、日本からの距離が近いため輸送コストが大幅に抑えられること | 2. ベトナムの平均賃金は中国の約3分の1以下という極めて低い水準にあり、企業にとって低コストでの生産が可能であること | 3. ベトナム政府が平均賃金を急激に引き上げたことで、労働者の意欲が高まり生産効率が向上したこと | 4. 東南アジア諸国では日本と同じ賃金水準での雇用が義務付けられており、労働環境が安定していること |
|---|---|--|---|
- 問2 東アジアの諸国の中で、2020年代の統計においてインターネット利用率が約97%ときわめて高く、主な輸出商品に機械類や自動車が含まれ、かつ輸出入のいずれにおいても中国が最大の貿易相手国となっている国はどこか、名称を答えなさい。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|--------|---------|---------|
| 1. オーストラリア | 2. インド | 3. 大韓民国 | 4. メキシコ |
|------------|--------|---------|---------|
- 問3 世界の米の生産状況について正しく説明している文を、次のうちから1つ選びなさい。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. アフリカ州が世界全体の生産量の約90%を占めており、ナイジェリアやエジプトなどが主な生産国となっています。 | 2. 北アメリカ州が世界全体の生産量の約90%を占めており、アメリカ合衆国やカナダなどが主な生産国となっています。 | 3. 南アメリカ州が世界全体の生産量の約90%を占めており、ブラジルやアルゼンチンなどが主な生産国となっています。 | 4. アジア州が世界全体の生産量の約90%を占めており、中国やインドなどが主な生産国となっています。 |
|--|---|---|--|
- 問4 主要穀物の生産と貿易の動向について、小麦と米の各統計データを踏まえた説明として、正しい記述はどれですか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 米の生産上位5か国である中国、インド、インドネシア、パングラデシュ、ベトナムは、いずれも人口密度が低いため、生産量のほとんどを輸出に回している。 | 2. 小麦は生産量が多い国ほど国内消費も必ず多いため、統計上、小麦の生産上位5か国が輸出上位5か国に入ることは絶対はない。 | 3. 小麦の生産上位国にはロシアやカナダが含まれ、これらの国は広大な国土を活かした大規模農業により、世界市場への主要な輸出国の役割を担っている。 | 4. 米の輸出統計を見ると、タイやベトナムといったアジアの国々は含まれておらず、アメリカやカナダといった北米の国々が輸出の大半を占めている。 |
|---|---|--|--|
- 問5 現代社会において主要なエネルギー源であるだけでなく、プラスチックなどの化学工業製品の原料としても広く利用されている液体状の鉱産資源があります。2013年の統計において、ロシアが世界全体の13.5%、サウジアラビアが13.0%、アメリカ合衆国が10.0%の生産量を占めているこの資源は何ですか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|---------|------------|
| 1. 石炭 | 2. 鉄鉱石 | 3. 天然ガス | 4. 原油 (石油) |
|-------|--------|---------|------------|
- 問6 アジア州の各地域に属する国々の組み合わせのうち、そのすべてが「東南アジア」に分類されるものを選びなさい。 (2021年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------------|----------------|--------------|
| 1. 中国・韓国 | 2. タイ・インドネシア | 3. サウジアラビア・トルコ | 4. インド・パキスタン |
|----------|--------------|----------------|--------------|
- 問7 1980年代後半、欧州や北米で経済のブロック化が進む動きが見られるなか、アジア・太平洋地域において1989年に新たな協力の枠組みが設立された。その設立の背景や目的を説明した文として適切なものはどれか。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. アジア・太平洋地域における軍事的な協力を強化し、集団安全保障体制を確立するため | 2. 石油などのエネルギー資源を安定的に供給するため、資源産出国の利害を調整することを目的にするため | 3. 加盟国間での共通通貨を導入し、ヨーロッパのような政治的・経済的な統合を果たすため | 4. 地域内の多様性を尊重しながら、貿易や投資の自由化を促進して経済的な結びつきを強めるため |
|--|--|---|--|
- 問8 中国が1970年代末から経済の近代化を目指して進めた「改革・開放」政策において、外国企業からの資本や技術を導入するために、税制の優遇措置などを与えて設けた特定の地域を何といいますか。 (2021年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 工業団地 | 2. 経済特区 | 3. 国営企業 | 4. 特別行政区 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問9 インドにおいて、情報通信技術 (ICT) 関連産業が急速に発展し、世界中へ多くのエンジニアや専門家を輩出している主な要因として、適切な説明はどれですか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 豊富な石油資源の輸出利益を背景に、政府が他国のIT企業をすべて買収したため | 2. 仏教の平等な精神に基づき、身分制度に関わらず全国民が最新のコンピュータを所有しているため | 3. 高い教育水準による数学的能力の高さに加え、英語を話せる人材が豊富であるため | 4. 国内の労働賃金が世界で最も安いいため、単純な組み立て作業が集中しているため |
|--|---|--|--|
- 問10 東南アジアのインドシナ半島中央部に位置する熱帯の国において、1980年代以降、日本などの外国企業の工場が多く進出したことで起きた産業構造や貿易の変化として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|-------------------------------------|
| 1. 羊毛や小麦などの大規模な農牧業が発達し、南半球における食料供給拠点となった | 2. 豊富な石油資源を背景に、原油の輸出を中心としたモノカルチャー経済へと移行した | 3. 綿花の輸出を主軸としながら、スエズ運河を利用した中継貿易が経済の中心となった | 4. 主な輸出品が農産物や鉱産物から、機械類や自動車へと大きく変化した |
|--|---|---|-------------------------------------|
- 問11 日本との共通点や交流の様子を説明した以下の記述のうち、地理的条件や社会的な背景から見て最も適切なものはどれですか。 (2025年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 鎖国に近い政策をとっているため日本との人的交流は制限されているが、造船や自動車などの工業製品のみが大量に輸入されている。 | 2. 日本との間に3時間の時差があるが、通信技術の発達により、現在はアニメーションなどのコンテンツ制作で協力関係にある。 | 3. 日本とは気候帯が大きく異なるため、かつては熱帯農産物の貿易が中心であったが、現在は先端医療分野の交流に特化している。 | 4. 日本との間に時差がなく、地理的な近さを活かして観光やポップカルチャーなどの文化交流が非常に盛んに行われている。 |
|---|--|---|--|
- 問12 アジアの経済と人口動態に関する記述のうち、中国とインドの状況を正しく説明しているものはどれか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 中国は改革開放によって経済成長を遂げたが、インドは高い人口増加率を維持し2023年頃に人口世界第1位となった。 | 2. 中国は国内総生産の大部分を農業が占めているが、インドはIT産業の発展により人口世界第1位を達成した。 | 3. インドは1980年代から一人っ子政策を導入して人口を抑制し、現在は中国が人口世界第1位を維持している。 | 4. インドは急速な少子高齢化によって人口が減少しているが、中国は高い人口増加率を背景に経済成長を続けている。 |
|--|---|--|---|
- 問13 近年のマレーシアの輸出統計では、パーム油などの一次産品の輸出額が増大しているにもかかわらず、輸出全体に占めるそれらの割合は、1980年当時と比較して低下しています。このような統計上の変化が起きた背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 森林保護のためにアブラヤシの栽培面積を制限し、輸出货量を意図的に削減したため。 | 2. 外資を導入した工業化政策により、電気機器などの機械類の輸出がそれ以上に急増したため。 | 3. 天然ゴムからパーム油への転換が進まず、農業全体の生産性が著しく低下したため。 | 4. 国内の人口増加に伴い、生産されたパーム油のほとんどが国内で消費されるようになったため。 |
|--|---|---|--|